

はじめに

この冊子は2018年6月に日本パグウォッシュ会議と明治学院大学国際平和研究所の共催で開かれた講座《ラッセル・アインシュタイン宣言と「非戦」の思想》の記録です。

パグウォッシュ会議（1957年発足）は核兵器廃絶をめざす科学者の国際的運動です。

原点となった「ラッセル・アインシュタイン宣言」以来、核兵器廃止と並んで、戦争それ自体の廃止、国際紛争の平和的解決をめざして活動を展開していますが、このような理念は、ヒロシマ・ナガサキの悲劇を経験し、平和憲法のもと、戦争のない世界をめざしてきた私たち日本の市民や科学者にとって、実は身近なものとも言えます。湯川秀樹氏以来、日本の科学者はパグウォッシュ会議に早くから積極的に参加してきた蓄積がありますが、「戦争」や「核」をめぐる問題が現在の世界（北東アジアを含む）にとって依然として切実な課題でありつづけるなか、この運動について私たちが真剣に学び、日本の経験も踏まえる形で議論・理解を深め、対外発信を行なっていくことは、世界にとっても日本にとっても益々重要になっていると言えるかもしれません。

このような思いから、日本パグウォッシュ会議は2018年より連続講座《パグウォッシュ会議と「非戦」の思想》をスタートし、明治学院大学国際平和研究所との共催で、一連の公開講座を展開することにしました。この講座では、「戦争」と「平和」の問題に、平和を求める科学者の立場から新たな視点を提供することをめざします。自然科学・人文社会科学の垣根を超えて多様な分野の科学者が語り、市民と科学者が対話することで、「戦争によらない紛争解決の道」「非戦」をめざす思想と運動を、一層豊かなものにしていくことを目標に掲げています。

本冊子の原型となった会合はその第1回目で、2018年6月9日（土）午後、明治学院大学白金キャンパスで開催され、小沼通二氏（慶應義塾大学名誉教授）による基調講演「ラッセル・アインシュタイン宣言と「非戦」の思想」に続き、稲垣知宏氏（広島大学教授・理論物理学）および大西仁氏（東北大学特任教授・国際政治学）によるコメント（サブ報告）、さらに会場全体での質疑応答・討論という形で進行しました。（開会にあたり鈴木達治郎日本パグウォッシュ会議代表が挨拶・趣旨説明、司会は明治学院大学国際平和研究所の高原孝生、千葉大学の栗田禎子が担当）。

参加者は約50名で、市民・研究者・学生等が集まり、3時間以上にわたって熱のこもった講演・報告、討論が行われました。冊子化にあたっては、基調講演・サブ報告の記録全体を掲載したほか、当日使用されたスライドも収録しています。（討論については紙幅の関係で全体を収録することはできなかったが、巻末に「討論概要」を掲載。）

いうまでもなく、講演・報告のなかに見られる知見・分析は、専門も世代も異なるさまざまな論者によるものであり、共鳴、補完し合う面もあれば、異なる視角からの像を提示する場面もあります。さまざまな切り口からの分析が組み合わされ、「対話」を通じて問題の理解が深まっていく、そのような取り組みの場として、今後もこの連続講座を育てていきたいと考えています。ささやかではありますが本冊子が、平和を求める日本の市民・科学者の運動の発展に何らかの手がかりを与えるものとなれば幸いです。

講座の運営には明治学院大学国際平和研究所および日本パグウォッシュ会議の事務局スタッフが協力してあたり、本冊子の編集実務には明治学院大学の秋山道宏さんが尽力してくれました。記して感謝します。最後に、当日の登壇と貴重な講演・コメントに加え、その後の面倒な原稿チェック・校正作業にも辛抱強くおつきあい頂いた講演者・報告者のみなさん、また熱心な質問や発言によって議論の深化に貢献された参加者全員に改めて感謝します。

2019年2月

鈴木 達治郎（日本パグウォッシュ会議代表）

栗田 禎子（同副代表）

高原 孝生（同副代表・明治学院大学国際平和研究所）